

連載

株式評論家 山本伸一の

兜町スタンダード



無敗の「大統領選挙前年」やはり今年は騰がる年!?

新年1回目となった前回のコラムで「卯年は跳ねる」は本当か!」と題していたが、調査機関のレポートなどでも過去のパフォーマンスに着目した「2011年相場の先行き」に強気な見通しが相次いでいる。

前回では「干支」の周期性を中心に取り上げたが、今回は米国市場でのアノマリーを紹介したい。当然ながら、漢字文化圏ではない米国は「干支」のアノマリーは意識されるわけがなく、新たな視点として興味深いのではないだろうか。すでにタイトルで「ネタバレ」しているかもしれないが、米国での「4年に一度の大イベント」でもある『大統領選挙』がアノマリーに該当する。今年は大統領選前年に当たり、実は1950年以降15回あった大統領選前年のうち、ダウ平均株価の年間騰落率がマイナスになったことは二度もないのだ。

要因として挙げられるのが、現職の政権担当者が翌年の政権維持を目論み、経済政策運営を積極化し「結果」を意識するとの説が一般的。米国市場との関係性が深い東京市場にも好影響が期待されるだろう。

銘柄としては、米国消費市場で存在感を放つ、自動車や電気機器業種だろうか。弊社も「ダウ無敗年」を意識したテーマ、銘柄構成を準備。随時注目銘柄を提供しているので、興味のある方は弊社に直接問い合わせしてほしい。